

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハートフルまんてん にじゅうまる（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和8年4月8日		～ 令和8年4月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 2名	(回答者数)	2名
○従業者評価実施期間	令和8年2月8日		～ 令和8年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月11日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援の充実 一人ひとりの発達段階や特性に応じた個別支援計画を作成し、きめ細やかな支援を行っている点が高く評価されている。今後も、より専門性を高め、個別性に配慮した支援の充実を図っていく必要がある。	アセスメントを丁寧に行い、発達状況や特性、家庭環境を踏まえた個別支援計画の作成に努めている。支援にあたっては、日々の様子を記録・共有し、職員間で定期的に振り返りを行うことで、支援内容の見直しや統一を図っている。また、子どもの興味・関心を取り入れた活動設定や成功体験を積み重ねる関わりを意識し、主体性や意欲の向上につなげている。さらに、保護者との情報共有を密に行い、家庭と連携した一貫性のある支援を実施している。	職員研修や事例検討を通して専門性の向上を図るとともに、定期的な支援の見直しを行い、より個別性に応じた支援の充実に向けていく。また、保護者との連携を強化し、家庭と一貫した支援の提供を行っていく。
2	発達を促す活動内容 遊びや療育活動を通して、子どもの発達や社会性の向上を促す支援が行われている。今後も活動内容の工夫や充実を図り、楽しみながら成長できる支援を継続していく。	子どもの興味や発達段階に応じた活動を取り入れ、遊びを通して無理なく発達を促している。成功体験を積み重ねることで意欲や社会性の向上につなげている。	活動内容の幅を広げるとともに、子どもの興味や発達に応じたプログラムの工夫を行っていく。職員間での振り返りや研修を通して支援の質を高め、より効果的に発達や社会性の向上につなげていく。
3	連絡帳や送迎時のやり取り、お便りを通して、日々の様子や成長を丁寧に伝えており、保護者との信頼関係が築かれている。今後も保護者のニーズを的確に把握し、相談しやすい環境づくりをさらに強化していく。	連絡帳や送迎時に具体的なエピソードを伝え、子どもの様子が分かりやすいよう工夫している。保護者が気軽に相談できるよう声かけや関係づくりを大切にしている。	連絡手段の充実や情報共有の機会を増やし、より分かりやすく丁寧な伝達に努めていく。あわせて、定期的な面談や相談の場を設け、保護者が安心して相談できる体制づくりを強化していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の情報共有は行われているが、職員間で支援方法や対応にばらつきが見られることがある。支援の質を一定に保つため、より一層の共有体制の強化が必要である。	職員間で支援方法や対応にばらつきが見られ、支援の統一が十分でない点が課題である。	支援方針や対応方法の明確化を図るとともに、定期的なケース会議や情報共有の場を設け、職員間の共通理解を深め、統一した支援の実施に努めていく。
2	連絡帳や送迎時の伝達は行っているものの、内容や頻度に差が生じることがある。保護者がより安心できるよう、情報発信の方法や質の向上が求められる。	連絡帳や送迎時の伝達において、内容や頻度にばらつきが見られ、情報提供に差が生じている点が課題である。	伝達内容の基準や記載方法の統一を図るとともに、職員間での確認体制を整備し、継続的かつ分かりやすい情報発信に努めていく。また、保護者のニーズに応じた伝達方法の工夫を行い、安心して相談できる環境づくりを強化していく。
3			